



目黒駅前に集合。校友会のスタッフから説明を受けてレジメを手に出発



秋は紅葉、春は桜と風情をかもし出す目黒川

午後1時過ぎに目黒駅前からA・Bの2班に分かれて出発しすぐに「行人坂」へ、多くの行者が入りしたことからそう呼ばれた坂を下り、「1 大円寺」へ。この寺は「行人坂の大火」の火元となったため76年間本堂の建立が許されませんでした。寺内には五百羅漢の石仏が大火の遭難者の供養の目的で建立されています。

八百屋お七と小姓吉三の恋物語を聞きながら目黒雅叙園の入口にある「2 お七の井戸」を左に、紅葉の目黒川にかかる「太鼓橋」を渡り、「3 蟠竜寺」へ。寺の奥の洞窟に岩屋弁財天と石蛇が祀られています。本来あった阿弥陀如来銅像は、現在バリの美術館に所蔵されています。

海福寺へ向かう途中の小高い丘の上に、甘諸の栽培普及に努めた青木昆陽の自筆で『甘諸先生之墓』と記した「4 墓碑」があります。「5 海福寺」は、隠元禪師開山、二世住職に独本が就いた、臨済宗、曹洞宗に次ぐ禅宗の一つ黄檗宗の寺で、寺には「6 文化4年永代橋崩落横死者供養塔及び石碑」が建っています。

「7 五百羅漢寺の羅漢堂」に入ると、仏師松雲元慶が辛苦の末に彫像されたのは536体（彫像されたのは536体）が目の前に迫力ある姿を見せます。表情豊かな彫像その一体一体が時代を経て、『張り詰めた糸はやがて切れる』『頭は低く目は高く心は広く』など、大切な教えを語りかけてくるようです。

「8 目黒不動（龍泉寺）」のそばに立つ本堂を中心とした広い敷地の様々な史跡と広大な敷地が、当



1 五百羅漢が並ぶ大円寺

時の賑わいを偲はせてくれます。その寺の入口前に権八と小紫の悲恋物語で知られるに「9 小紫・権八の比翼塚」があり、右手に見ながら5分ほど歩くと「10 蛸薬師」と呼ばれる『福を吸いよせる』『11 成就院』で三代將軍家光の弟保科正之の生母お静か我が子の成長と栄達を願う、そんな心に触れることができます。

太平洋戦争の空襲にも焼失しなかつた山門を抜けると「11 安養院」に着きます。紅葉した木立を抜け、行元寺で父を殺された百姓富吉が仇討ちを果たしたことを称えて作られた「12 隠語碑」を見るころには、あたりも日が暮れ薄暗くなってきました。景観と伝聞の江戸物語を堪能することができる「歴史散歩」です。



6 文化4年永代橋崩落横死者供養塔及び石碑2基



3 弁財天が祀られている蟠竜寺の岩屋



2 雅叙園の入口にあるお七の井戸



1 大円寺境内



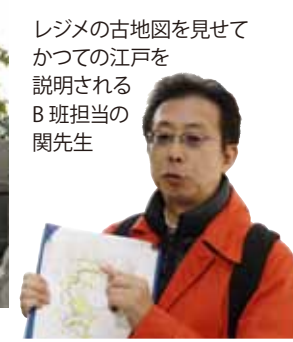
5 1683年に再建された海福寺の梵鐘



5 海福寺山門前で記念撮影



4 青木昆陽の墓



レジメの古地図を見せてかつての江戸を説明されるB班担当の関先生

⑧ 2班に分かれて移動したが、目黒不動の大本堂前合流して全員の記念写真を撮影



⑦ 階段を上ったところにある五百羅漢寺のチケット売り場で購入して見学



⑦ 五百羅漢寺の入口階段



足取りも軽く今回のメインともいえる目黒不動（龍泉寺）へ



⑦ 撮影は禁止されているので冊子などを購入すると羅漢の写真が手に入る



⑧ 仁王門を上げると正面に大本堂へとつながる男坂がある



⑧ 目黒不動の正面仁王門が寺の大きさを語る



⑧ 参加した学生諸君も手水舎で身を浄めていた



⑧広報に見える男坂の階段左手にある、独鈷の滝。開山以来1200年どんな旱天にも涸れたことがないという



⑧行者倚像



⑧女坂を下る途中に右手に銅造役の行者倚像



⑧大本堂の回廊を裏手に行くと大日如来像がある



⑩徳川二代将軍秀忠公の側室お静の方の発願で奉納された石地藏



⑩成就院（蛸薬師）本堂には薬師如来像が祀られている



⑨愛し合って死んだ男女の墓である比翼塚、悲恋物語を語る墓



⑫行元寺前裏面にある隠語の碑文

癸卯天明陽月八
二人不戴九人誰
同有下田十一口
湛乎無水納無絲
南畝子 願主
休心

⑫行元寺前隠語の碑文文字



⑪紅葉の境内を散策



⑪山門の両側には寄進された中国様式の獅子像が配置されている



⑪安養院入口。正面に山門が見える